

木更津工業高等専門学校		開講年度	平成31年度 (2019年度)		授業科目	国語 I B		
科目基礎情報								
科目番号	0024			科目区分	一般 / 必修			
授業形態	授業			単位の種別と単位数	学修単位: 2			
開設学科	電気電子工学科			対象学年	1			
開設期	後期			週時間数	2			
教科書/教材	東郷克美ほか『高等学校 改訂版 国語総合』（第一学習社、2017年）、『現代文攻略 読む！ 問題集』（明治書院）、『ことばを広げる新漢字ノート』（浜島書店）							
担当教員	加藤 達彦							
到達目標								
1.話し手の言葉を聴き取り理解することができる（聴く力）。 2.授業で扱う様々な文章を読解することができる（読む力）。 3.自分の思いや考えを表現することができる（書く力）。 4.教育漢字をほぼ読み書きできる。 5.辞書等を使いながら基本的な古文・漢文が読解できる。								
ルーブリック								
	理想的な到達レベルの目安			標準的な到達レベルの目安		未到達レベルの目安		
評価項目1	話し手の言葉を正確に聴き取り、かつ真意を推し量り、対応することができる。			話し手の言葉を正確に聴き取り理解することができる。		話し手の言葉を正確に聴き取り理解することができない。		
評価項目2	教育漢字を含め、授業で扱う様々な文章を正確に読解し、かつ鑑賞することができる。			教育漢字を含め、授業で扱う様々な文章を正確に読解することができる。		教育漢字を含め、授業で扱う様々な文章を正確に読解することができない。		
評価項目3	基本的な古文・漢文を正確に読解し、かつ鑑賞することができる。			基本的な古文・漢文が正確に読解できる。		基本的な古文・漢文が読解できない。		
学科の到達目標項目との関係								
教育方法等								
概要	国語 I は、特に「聴く」「読む」等の基礎学力の向上を重視する。古文では広く日本文化や伝統に触れ、古文の基礎的な知識を身につける。同時に豊かな人間性を養うべく、様々な情報や考え方に親しむことを目標とする。この科目は学修単位科目のため、課題学習時間等を利用して教科書とは別に問題集を使った自学自習を行うこと。定期試験等を通じて、その内容の理解度を評価するので、質問等があれば、授業中に確認すること。							
授業の進め方・方法	①授業は基本的に教科書に沿って講義形式で行い、現代文を週に1時間、古文を1時間の割合とする。 ②講義は集中して聴き、ノートを取るのは当然である。それに加えて、自分の意見やアイディアを記録するくせをつけること。 ③毎週1回程度、漢字テキストからプリント形式で小テストを行うので、自学自習を進めておくこと。 ④現代文問題集は、定期試験の範囲に含めるので、丁寧に取り組み、自学自習を進めておくこと。							
注意点	自ら疑問点を出し、積極的に質問して授業の中で解決していくという態度が大切である。そのためにも予習として前もって作品を読み、わからない語句等を辞書で調べてくれることが望ましい。							
授業計画								
後期	3rdQ	週	授業内容			週ごとの到達目標		
		1週	①評論(2)池内了等を読解する。			文章を客観的に理解し、人間・社会・自然などについて考えを深める。		
		2週	②評論(2)池内了等を読解する。			人間・社会・自然などについて考えを広げ、自分なりの意見をまとめる。		
		3週	古文 歌物語『伊勢物語』等を読解する。			歌物語の基本を学ぶ。		
		4週	①短歌 「その子二十…」等を読解し、短歌を実作する。			短歌の表現技巧を知る。		
		5週	②短歌 「その子二十…」等を読解し、短歌を実作する。			短歌の表現技巧を使い、創作する。		
		6週	古文 随筆『徒然草』等を読解する。			随筆の基本を学ぶ。		
		7週	表現の実践 文章の要約			文章の要約方法を学ぶ。		
	4thQ	8週	後期中間試験			今までの授業をふまえ、設問に対して正しく解答する。		
		9週	試験の解答と解説			試験問題を見直し、正しい解答の導き方を確認する。		
		10週	①小説(3)志賀直哉等を読解する。			人物・情景・心情の描写ならびに創作意図などを理解して味わう。		
		11週	②小説(3)志賀直哉等を読解する。			創作意図などを味わい、その上で自らの疑問を問いにすることができる。		
		12週	古文 日記文学『土佐日記』等を読解する。			日記文学の基本を学ぶ。		
		13週	漢文入門 訓読法／故事成語			漢文訓読の基本を学ぶ。		
		14週	言語活動 情報探索の方法と実践			情報探索の方法を学び、実践する。		
		15週	後期期末試験			今までの授業をふまえ、設問に対して正しく解答する。		
16週	試験の解答と解説・年間の授業の間総括			試験問題を見直し、正しい解答の導き方を確認する。				
評価割合								
	試験	発表	相互評価	態度	ポートフォリオ	その他	合計	
総合評価割合	0	0	0	0	0	0	0	
基礎的能力	8 0	0	0	0	0	2 0	0	
専門的能力	0	0	0	0	0	0	0	
分野横断的能力	0	0	0	0	0	0	0	